

2023. 10. 1

# 歴史民俗資料館だより No.151

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

## 秋の特別企画展

### ～長崎書画展～

会 期 10月12日(木)～12月3日(日)

展示品 長崎奉行・黄檗僧・商館員・蘭通詞・長崎南画三筆・江稼圃・唐絵目利・高島秋帆・釧雲泉など 約30点

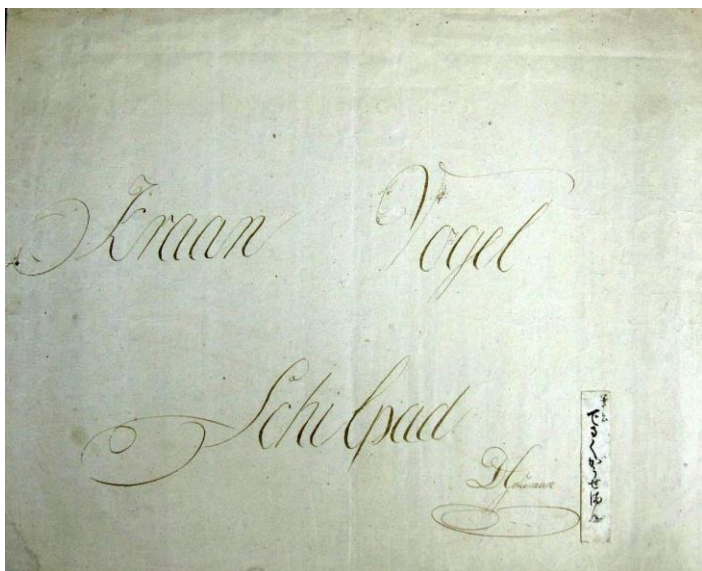
#### ごあいさつ

江戸時代の長崎は、日本唯一の貿易港として栄え、唐蘭貿易が行われていました。特に中国からは貿易品の他に書画などももたらされ、多くの人々が来崎しました。長崎奉行の来崎や唐蘭商人の来航とその通訳者や、町年寄、町乙名など地役人との交流もありました。そして、そのたしなみは、日本中で大流行しました。

今回の展示品は、全て個人蔵の日本、中国、オランダ関係の書画で、初公開の資料がほとんどです。

これらの資料を通して、躍動していた貿易都市長崎に携わった人達の書画をご覧いただけたらと思っております。

今回の展示に際しまして、ご協力いただきました中島恒治様、三角智城様をはじめとする、関係者各位に深く御礼申し上げます。



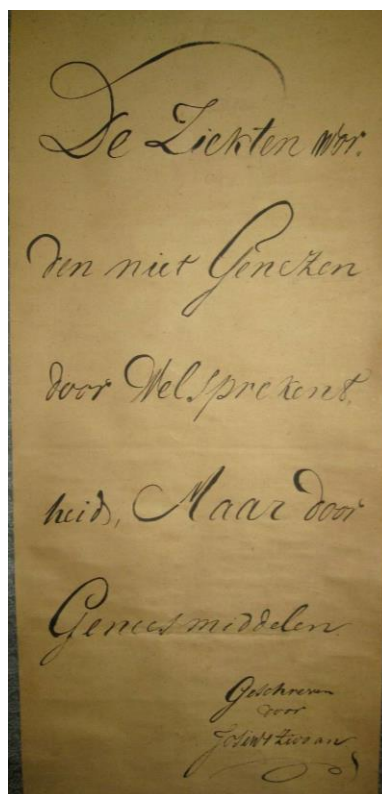
商館員 ホーゼマン筆 鶴亀 文化3年(1806)



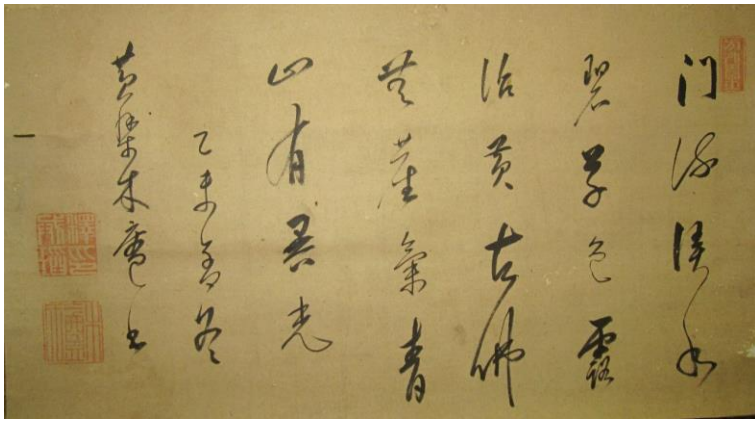
画者不詳 長崎港図 江戸時代後期

長崎港口の両側に西泊、戸町の番所が描かれ、港内に唐蘭船が停泊し、その貿易品を運ぶ千石船が描かれています。

絵の左に出島、右下に、西役所、さらに、右上の大波止あたりに、到着した槍持を従え乗馬した武士の一行が描かれています。



阿蘭陀通詞 吉雄権之助筆蘭文 江戸時代後期  
吉雄耕牛の子で、シーボルトの研究を助けました。



黄檗山萬福寺2代住持 木庵書 寛文5年(1665)



木下逸雲筆 高島秋帆絵像 慶応2年(1866)頃



唐船主 陳逸舟他十一名寄書 嘉永元年(一八四八)

陳逸舟は、道光七年(文政十年・一八二七年)初来日、その後、十一回以上、二十三年に亘り、来崎しました。逸舟は、虞山派の画風を受け継ぎ、山水画・梅花図を得意とし、長崎南画三筆の鉄翁祖門・木下逸雲・三浦梧門らに画法を伝えました。



長崎南画三筆他寄書 万延元年(一八六〇)

春徳寺鉄翁、八幡町乙名木下逸雲、興善町乙名三浦梧門など。



長崎板画 文化10年(1813)頃



山口八九子筆 万屋町鯨図 大正11年(1922)